

令和5年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	森本章倫 早稲田大学教授	
研究テーマ	メタバースの進展が都市に与える影響に関する研究	
研究の目的： <p>近年注目を集めているメタバースは、離れた場所にいる利用者同士のアバターを介したコミュニケーションや様々な行動を可能にする。また、「都市連動型メタバース」として、実在する都市を忠実に再現した仮想空間内で現実空間と連動したイベントの開催を行うなど、仮想空間と実際の都市との連動も進んでいる。今後、このような流れが加速化すると、私たちの日常生活における行動を変容させ、外出率や購買行動の変化などを通して都市に対しても大きな影響を与えられられる。本研究会では、このメタバースを研究対象として、今後のメタバースの進展が日常生活における行動変容や、外出率や購買行動の変化などを通して都市にどのような影響を与える可能性が高いかを検討する。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>本研究会では計4回の研究会を実施し、メタバースの現状把握からメタバースの利用が行動や都市・交通活動に与える影響について多面的に討議した。メタバースの活用は民間事例のみではなく、自治体導入事例も徐々に増えており、観光客の誘致や地域の魅力PRや人材育成など多岐にわたる事例がみられた。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： 得られた成果は総じて以下の3つにまとめることができる。		
(1) メタバースの最新動向の整理		
本研究で取り扱うメタバースの定義や現状での利用実態について情報共有を行った。また、メタバースの体験施設の調査結果をもとに、VRタイプの分類や体験施設、導入時の課題などについて整理した。		
(2) メタバースの利用が行動に与える影響		
メタバースによる行動変化として、外出頻度が減少する代替関係、外出頻度が増加する相乗関係、あるいは行動の質の向上に寄与する補完関係がある。メタバースの内容によって様々な効果が発現している。		
(3) 仕事におけるメタバースの活用が都市・交通活動へ与える影響		
バーチャルオフィスの事例を調査し、メタバースを活用した新たな勤務形態について討議した。就業場所の補完として、オフィスやプラントのデジタルツインがあり、就業場所の代替としてはリモートワークがある。空間的な制約を受けない利点がある一方で、VR酔いやセキュリティの課題もあり、利用者の増加には没入感の向上が必要である。		
今後の課題： <p>NFT、DAOなどのWeb3技術を導入し、NFTアートなどの地域独自のコンテンツの売買やデジタル資産の取引を目的とした導入事例は増えつつある。一方で、メタバース内での法律やルール整備や事業化の難しさ、プライバシーなど課題も山積していることも分かった。</p>		